

## 豊岡市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の改定

～「コウノトリ羽ばたく自然豊かなゼロカーボンシティ」を目指して～

世界的に地球温暖化を取り巻く環境が「低炭素」から「脱炭素」へ大きく変わり、本市も2021年3月議会で「2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロを目指す」ことを表明した。

その目標実現に向けて、「豊岡市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）」（2016年4月策定）を8年ぶりに改定した。

### 1 改定の背景

- (1) 世界の平均気温上昇を、産業革命以前と比較して1.5℃以内に抑えることが世界共通目標（旧実行計画策定時点では2℃以内）
- (2) 国は、2030年度の温室効果ガス排出量の2013年度比46%削減を目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続けることを表明
- (3) 兵庫県は、2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比48%削減の達成に向け取り組むとともに、さらなる高みを目指す

### 2 計画目標

#### (1) 2030年度再生可能エネルギー導入目標

2020年度累積実績比1.6倍（2020年度256TJ→2030年度411TJ）

※TJ（テラジュール）＝エネルギー量を表す単位

#### (2) 2030年度温室効果ガス削減目標

2013年度比54%削減（旧目標2013年度比28.1%削減）

参考 国：46%削減、兵庫県：48%削減

3 計画期間 2024年度～2030年度（7年間）

4 目標年度 2030年度（長期目標年度：2050年度）

5 基準年度 2013年度

### 6 将来ビジョンと基本方針

(1) 将来ビジョン：コウノトリ羽ばたく自然豊かなゼロカーボンシティ とよおか

#### (2) 実現すべき3つの社会

- ア 脱炭素と生物多様性の保全が共に実現する持続可能な社会
- イ 効果的にエネルギーを利用することで、環境保全や健康維持につながる社会
- ウ 脱炭素と地域経済が循環する元気な社会



### (3) 将来ビジョンを実現するための6つの基本方針

方針1	エネルギーの使用を【減らす】
方針2	エネルギーを【賢く使う】
方針3	エネルギーを【創る】
方針4	地域づくりに【活かす】
方針5	生物多様性に【配慮する】
方針6	二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )吸収源を【増やす】



市ホームページ  
豊岡市地球温暖化対策実行計画  
(区域施策編)

## 7 脱炭素化に向けた施策（緩和策）

### (1) エネルギーの使用を【減らす】

省エネ性能の高い製品への買い替えやLED照明への切替え など

### (2) エネルギーを【賢く使う】

電気自動車や蓄電池の導入、充電設備の設置拡大 など

### (3) エネルギーを【創る】

太陽光発電や薪ストーブ・ペレットストーブの導入 など

### (4) 地域づくりに【活かす】

エネルギーの活用による防災の推進（避難所となる公共施設への太陽光発電システムや蓄電池の導入など）や環境学習の推進 など

### (5) 生物多様性に【配慮する】

生物多様性に適切に配慮した再生可能エネルギーの導入促進（ラムサール条約湿地や自然共生サイト認定地域など、コウノトリの生息環境や生物多様性の視点から保全が求められる区域を保全区域に設定し、生息環境に悪影響が生じるような再生可能エネルギー導入を規制するなど） など

### (6) 二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)吸収源を【増やす】

森林吸収量や水辺での二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)吸収源の確保 など

## 8 気候変動の影響に対する施策（適応策）

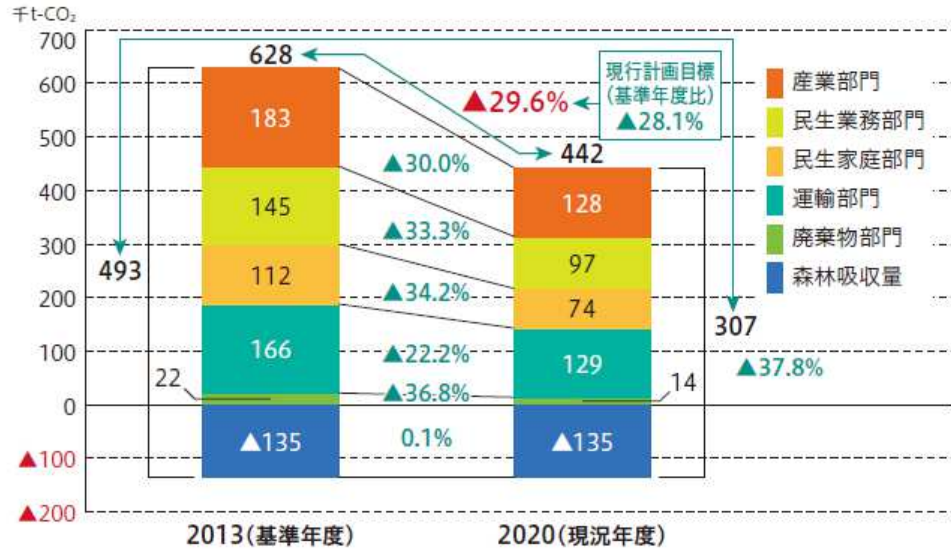
「適応」とは、気候変動の影響に対し、自然や社会のあり方を調整することにより被害を防止・軽減する温暖化対策のこと。

分野	想定される影響	主な適応策
自然生態系	動植物の絶滅リスクの増加	生物生息状況への影響の把握及び保全策の実施 など
農林水産業	斜面崩壊発生確率の増加	森林整備を通じた山地災害の防止 など
自然災害	洪水等の水害リスクの増加	生物多様性保全と治水を兼ね合わせた湿地創出・保全 など
健康・生活	熱中症搬送者数の増加	熱中症の予防方法・対処についての普及啓発 など
産業(観光業)	スキー産業の衰退	通年型リゾートとしてのブランドづくり など

【参考】

温室効果ガス排出量の現状と将来推計

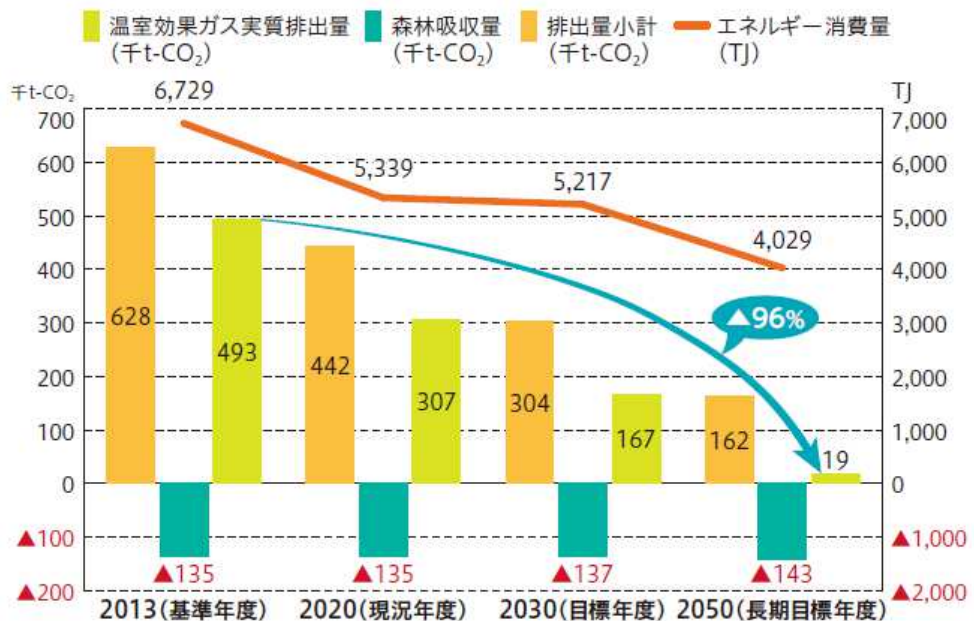
(1) 本市の温室効果ガス排出量は、2020年度時点で2013年度比29.6%削減しており、旧実行計画の目標（▲28.1%）を前倒しで達成。森林吸収量を含めると37.8%削減。



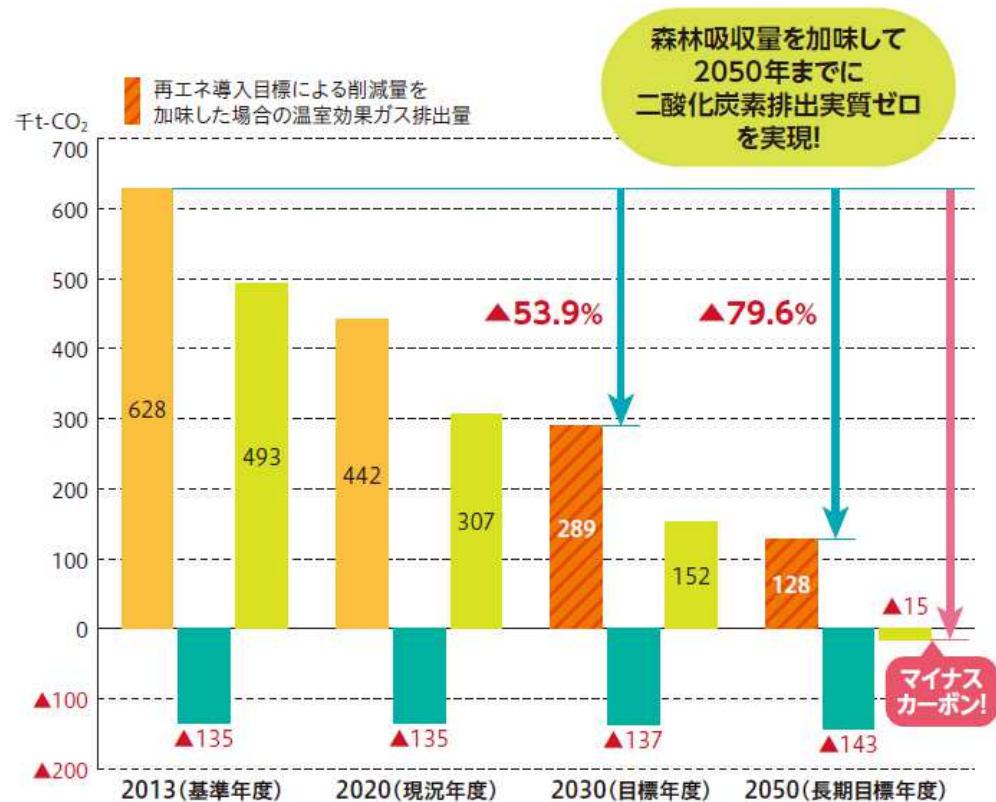
基準年度及び現況年度における温室効果ガス排出量

(2) 現状の温暖化対策以外に新たな対策を講じなかった場合、将来の温室効果ガス排出量は、現況よりも増加してしまう。

(3) 新たな温暖化対策（住宅の省エネ化や電気自動車の導入など）を講じた場合、2050年度の温室効果ガス排出量は、2013年度比96%削減が見込めるが、「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」には届かない。



(4) 2030年度再生可能エネルギー導入目標(2020年度累積実績比1.6倍)を進め、2050年までに二酸化炭素排出実質ゼロの実現を目指す。



### 策定経過

時期	内容
2022年12月26日(月)	豊岡市環境審議会 ・豊岡市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定について
2023年3月14日(火)	豊岡市環境審議会 ・豊岡市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定案について
2023年10月13日(金)	豊岡市環境審議会 ・豊岡市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定案について
2023年12月26日(火)	豊岡市環境審議会 ・豊岡市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)改定案について
2024年2月1日(木)~29日(木)	パブリックコメント実施

[問合せ] コウノトリ共生部コウノトリ共生課脱炭素推進室 TEL 0796-21-9136